

ILL事例報告

機関リポジトリ（IR）との関連



平成24年度日本医学図書館協会近畿地区会、日本薬学図書館協議会近畿・中国・四国・九州地区協議会、近畿病院図書室協議会共催実務者研修会
事例発表（2012.10.30）



奈良県立医科大学附属図書館
和田崇 tata-rin@naramed-u.ac.jp

本日の内容

○自己紹介

○奈良医大でのILL業務（主に依頼業務）事例報告

○ILL業務とIR（機関リポジトリ）業務の関わり



自己紹介

奈良県立医科大学附属図書館

スタッフ：6名（内ILL担当2名※IR兼務）

蔵書数：約150,000冊

所蔵雑誌数：約5,400タイトル



マスコットキャラクター
ないとちゃん

ILL受付分総計（2011年度） 3863件

※約4割が病院誌、看護研究誌などが占める（後述）

ILL依頼分総計（2011年度） 1449件（依頼実数）

※実際の依頼件数は2418件、うち969件は他学リポジトリで

閲覧可能だったものや自館所蔵につき依頼却下したもの

※依頼でも約2割が病院誌、看護研究誌の申込（後述）

ILLサービス概要

NIJ相殺サービス参加

FAX受付可能（資料の送信は不可）

2012年10月より現物貸借も開始（闘病記資料のみ）

ILL業務における事例報告

○事例報告（対応方法も含む）

○その他の申込先機関のご紹介

ILL事例①

書誌が同定できない場合

①そのまま申込（一か八か）→ あまり推奨できない
※相手館の負担が増える事はしない

②参考調査をかける → 最も効率が良い方法

③意地でも探す . . .

→冊子体医中誌（国立国会図書館で公開）で検索

→Googleで検索

※論文名で出てこない場合は、誌名、著者名、巻号、ページ数、出版年などを組み合わせて検索

→引用文献などで引っかかる場合がある

※Web of Scienceは未導入

ILL事例②

書誌は同定できたが、他館（国内）に所蔵がない場合

①海外での所蔵確認（NLM、LC、BLなど）

※NLM所蔵確認→LocatorPlus

※LC所蔵確認→Library of Congress Online Catalogs

※BL所蔵確認→Explore the British Library

②機関リポジトリ（IR）検索（後述）

※全国リポジトリ横断検索→JAIRO

③Google検索

※著作者の所属機関などで無料公開している場合がある（結構ヒットする）

その他ご紹介

その他の申込方法をご紹介

- ① 医中誌刊行会へ申込（契約外でも可能）
- ② 国立国会図書館へ申込（要会員登録）
- ③ 出版元へ申込

→ 病院誌、看護研究誌などは、出版元の病院内の
図書室などで複写受付しているところがある

例：福井県立病院図書室

埼玉県立がんセンター図書館

諏訪赤十字病院図書室

済生会下関総合病院図書室 など

ILLと機関リポジトリ (IR)

○機関リポジトリとは

○奈良医大機関リポジトリ「GINMU」

○ILLにおけるIRの影響

○問題点

○まとめ (総合)

機関リポジトリ (IR)

機関リポジトリとは、機関内（病院内、大学内）で、作成された学術成果（論文、記事、講義資料など）を電子化（パソコン上で閲覧できる形）し、機関内のコンピュータサーバーに保存して、インターネットを通じ全世界へ無料公開するためのシステムのこと。

2000年代より全世界的に普及していき、日本では千葉大学が2005年に公開したのを皮切りに、現在では全国278の機関で運営されている。（当学では2009年に公開）

誕生の背景としては、学術雑誌の価格高騰に対する対抗手段、灰色文献の流通促進などがあげられる。

※公開機関数≒NII調べ（2012年9月30日現在）

奈良医大機関リポジトリGINMU



<http://ginmu.naramed-u.ac.jp/>

2009年11月に正式公開

名称は「ギンム」ではなく「ジンム」

(名称の由来は「神武天皇」から)

2012年10月現在、登録文献は2000件を突破

では機関リポジトリが普及することにより、ILLの何が変わり、何に役立つのか？

ILLとIR①

近年のIRの普及によりILL業務への影響が大きくなっている

○紀要類のIRでの閲覧可能数の増加 → IR謝絶の増加

→学術情報流通の向上につながっている

○現在の所、Epub文献などは受付館の事実上の黙認を得る

しかない

→IRの普及によって（より確実に）閲覧可能になる可能

性がある

ILLとIR②

近年、病院誌、看護研究誌の需要が増加している

→灰色文献的な要素が強く、入手困難な資料

→当該病院図書室にて複写依頼を行っているのは稀

→医中誌への申込みは可能であるが料金が割高

→最悪は手に入らない・・・（結構ある）

→受付でも奈良医大のみ所蔵の申込が増加

機関リポジトリに期待

→つまり病院図書館の機関リポジトリへの参入
しかし・・・

問題点①

第29回医学情報サービス研究大会（2012.8.26）において、
病院図書館の機関リポジトリへの参入についてのワーク
ショップを開催（DRFmed-MIS29）

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?DRFmed-MIS29>

その際に出た意見としては・・・

→興味はあるが、現在の業務体制では難しい

→スタッフのほとんどが委託のため発言権がない

→そもそも人的（金銭的も）余裕がない

→etc… 厳しい意見が結構あった

→解決策（？）としては共同リポジトリの構築、しかも
ホスト館がほぼすべての業務を引き受けるモデル

→札幌医科大学で実施している方法

問題点②

ILL担当者にとっては、自館の所蔵確認だけでなく、IRでの閲覧の有無を調べる必要が生じている

→ただでさえ多くなっている検索ツールが増える

IRへの利用者の誘導の困難

→一般的にIRは知名度が低く、メールでの連絡ならともかく、口頭での誘導が難しい

→今後利用者への文献検索指導の際はIRも含める必要や、IRそのものの認知度を上げる必要がある

まとめ

- 現在ILL業務は様々な情報源へのアクセスが必要
- またIRの知識も必須となっている
- さらにIRへの参画の必要性
 - 学術流通の向上へつながる
- 結果ILL業務が激減する可能性もある
 - 但しIRがすべてをフォローすることはできないのでそれをILLが補う形になる？（まだまだ先の話？）

参考サイト一覧

PubMed <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/>

医中誌Web（要契約） <http://www.jamas.or.jp/>

CiNii Articles <http://ci.nii.ac.jp/>

国立国会図書館サーチ <http://iss.ndl.go.jp/>

国立国会図書館医中誌検索 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1866385>

Google Scholar <http://scholar.google.co.jp/>

福井県立病院図書室（ふれあい図書室「すいせん」も含む）

<http://info.pref.fukui.jp/imu/fph/guidance/welfare/library/library.html>

埼玉県立がんセンター図書館 <http://www.saitama-cc.jp/library/index.html>

諏訪赤十字病院図書室 <http://www.jrc-lib.jp/group/suwa/suwa.php>

LocatorPlus（米国医学図書館検索） <http://locatorplus.gov/>

Library of Congress Online Catalogs（米国議会図書館検索） <http://www.loc.gov/>

Explore the British Library（英国図書館検索） <http://www.bl.uk/>

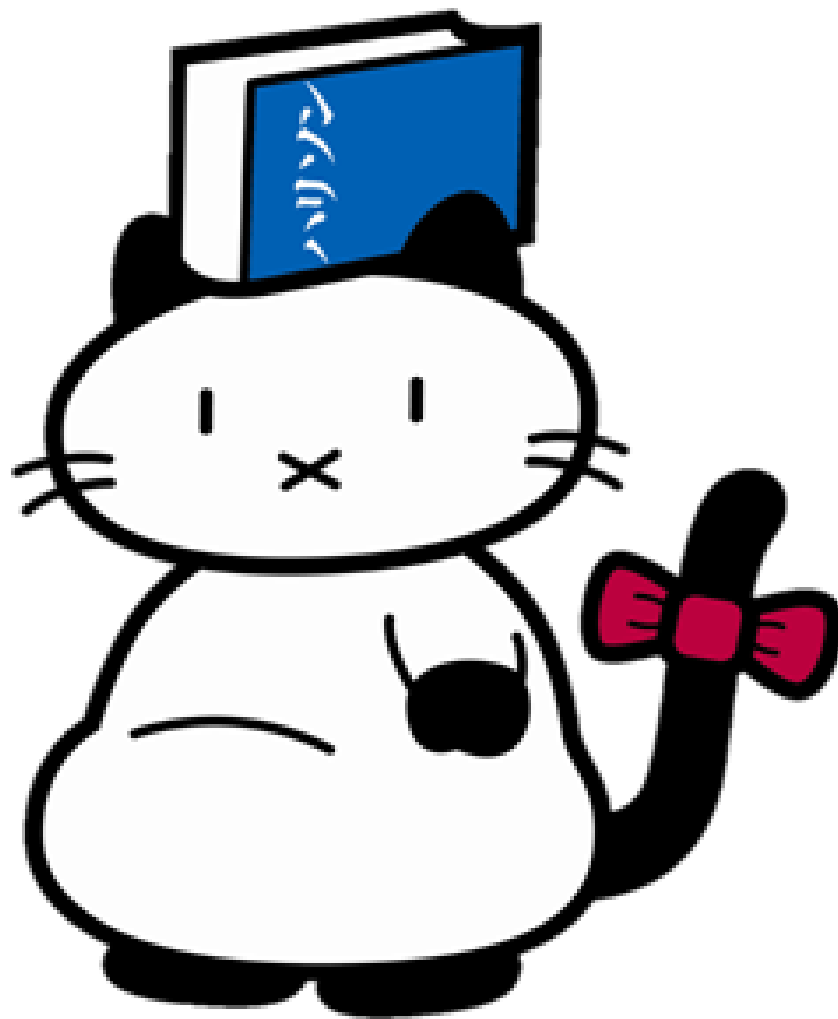
JAIRO（国内リポジトリ横断検索） <http://jairo.nii.ac.jp/>

GINMU（奈良医大機関リポジトリ） <http://ginmu.naramed-u.ac.jp/>

※その他のサイトについては奈良医大HP「文献検索」のサイトを参照

<http://www.naramed-u.ac.jp/lib/search.htm>

※CINAHL、最新看護索引Web、JSTPatMなどは要契約



ご清聴有難うございました。